



土地改良新聞社

東京都港区新橋4丁目30番7号 〒105-0004
電話 (3435) 8166
FAX (3435) 8174

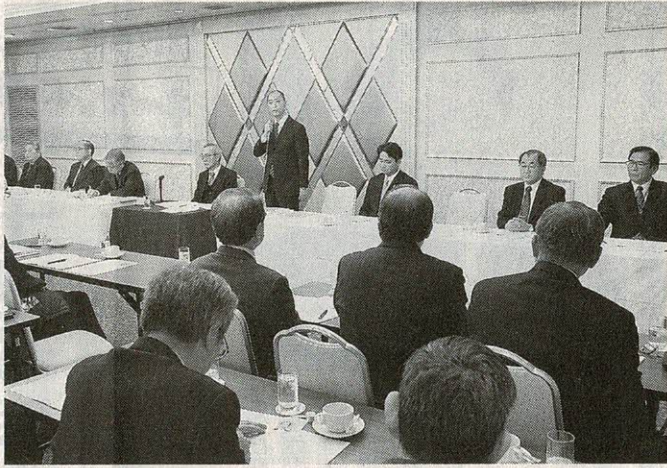
農林水産省は1月19日、「平成28年の荒廃農地面積」を取りまとめた。全国の荒廃農地面積は約28・1万ha(前年28・4万ha)で、農用地区域では約13・2万ha。このうち

「再生利用が可能な荒廃農地」は約9・8万ha(農用地区域は約5・9万ha)、「再生利用が困難と見込まれる荒廃農地」は約18・3万ha(同区域は約7・4万ha)。

次期参院選 候補者 宮崎雅夫氏を推薦決議

平成30年度定例総会 全国土地改良政治連盟

全国土地改良政治連盟の平成30年度定例総会は、1月19日午後2時から、東京都港区・芝パークホテルで開かれ、次期参議院選挙候補者の推薦について審議し、全国比例候補として、宮崎雅夫(みやざき・まさお)氏(前農林水産省農機振興局整備部地域整備課長・54歳)を推薦することを満場一致で決議した。進藤金日子参議院議員とともに車の両輪として、宮崎氏の土地改良を支える新たな若い力に大きな期待が寄せられている。



国政を志す思いを語る宮崎氏

定例総会では、全国土政連・佐藤準会長の挨拶後、佐藤会長が議長となり議事を進行、まず、全国土政連顧問の進藤金日子参議院議員は、挨拶の中で昨年を振り返り、党勢拡大・黨員確保と各級選挙への支援について会員の感謝の意を示すとともに、「全国各地それぞれに課題を抱えているが、さらに土地改良政治連盟の組織が強固になっていくよう、皆様と一体となつて努力していく」と述べた。

次に、次期参議院選挙候補者の推薦に関し、その選定経過を踏まえ、進藤議員より報告があった。(報告要旨)

「昨年の8月から11月にかけて各都道府県を廻らさせていただいた。上京された折にご意見を伺ったところもあるが、都道府県すべてのご意見を賜った。私の方からはポイントを5点に絞って意見を伺った。1点目は、中央の公務員か地方の公務員も含むのかとい

うこと。2点目は、土地改良以外の分野、いわゆる農業一般からでもよいのではないかと。3点目は、私は東日本出身なので西日本地域を重視してどうかということ。4点目は、女性候補はどうかということ。5点目は、年齢に関すること。このほか各地域の事情を聞かせていただいた。

皆様の意見は、強く主張されたのは、一つは人物重視であること。とにかく

く人物をしつかり見極めて選んでほしい、との声が多かった。二つには、やる気のある人を選んでほしいということ。三つには、早く決めてほしいということ。

皆様のご意見を集約していくと、1点目に関しては、全国比例なので中央の人をお願いしたいとの声は9割以上を占めた。2点目は、やはり土地改良でないとダメだというのがほぼ100%。でも、土地改良を中心にウイングを広げていくことは是非やってほしい、という意見が多かった。

3点目については、こだわらないが西日本の方が望ましいのではないかと、という声も多かった。4点目の女性候補では、一部の県にはそれを強く推す声もあったが、大多数は性別で問わず人物を重視すべきだとの意見が強かった。5点目の年齢に関しては、こだわらない県と、進藤と同等以下の年齢でないとダメだ、あるいは、定年退職者には支援できないといったこだわりが強い県があった。

そういった中で、佐藤会長と相談し人選をさせたいだき、先週の1月12日の役員会で総会にお諮りするよう申し上げた。農水省を昨年の12月31日で退職した「宮崎雅夫」さんである。年齢は私より5か月若く、年次は一つ下。一緒に仕事をしていたこともあり、適任ではないかと、佐藤会長からも声をかけていただいたところ、宮崎さんは「是非、やらせてほしい」と強い希望があった。役員会では、総会に諮ることを了承していただき、今日、この宮崎雅夫さんを次期参議院選挙の全国比例区の候補予定者として、全国土政連の推薦をいただくようお願い申し上げたい。

これを受けて、佐藤会長は、「本日ここに、次期参議院選挙の候補者に宮崎雅夫さんを全国土政連として推薦したい」と提案した。また、宮崎氏の略歴にふれ、「昭和62年に神戸大学を卒業し、農林水産省に入省された。全国の事業所などを廻っているが、ベトナム、カボジャなど海外協力関係の仕事にも携わっている。国内でも、本省では事業計画課など様々な任



当選目指し、義経大分県土政連会長（左）の音頭でガンバロウ！三唱

事をこなされてきているので、全く問題はないと思っている。最終的には、本省の地域整備課長を以って退職。地域整備課は、昔建設部と言っていた時代の農村整備関係を所管している課であり、交付金関係も取り扱う部署である」と説明。そして、「馴染みのない方々も多いと思われるので、ここで、ご本人に国政を志す理由・抱負を語っていただき、その上で皆様方からのご判断をいただきたいと思う」と述べた。

宮崎氏は、これまで歩んできた経歴を紹介するとともに、国政を志すきっかけや土地改良に対する熱い思いを語った（別掲）。

会員間の審議では、「奥様の決意を質したところ、宮崎氏は「家内は私以上にびっくりしているが、決断した私に理解を示してくれたと思っています」と応じた。佐藤会長が、宮崎雅夫氏を次期参議院選挙の候補者として推薦する是非を諮ると、異議なしの声が続出し満場一致で宮崎氏の推薦決議が採択された。同時に、全国土政連顧問の就任も決定された。

これを受け宮崎氏は、「只今、次期参議院選挙の候補者として推薦いただき、また、本会の顧問にも就任させていただき、大変ありがとございました。全力で頑張りたいと思っていますので、皆様のご支援をどう

ぞよろしくお願い申し上げます」と謝辞を述べた。大きな拍手が宮崎氏に送

られた。

ガンバロウ三唱では、大分県土政連の義経賢二

会長の音頭で、「次期参議院選挙、宮崎雅夫さんの当選を目指してガンバ

ロウ」と声を張り上げ、ガンバロウを唱和した。